

建コン協東北・遠藤新支部長が会見

地元企業底上げを

地域貢献評価の拡充求める

7月1日付で建設コンサルタント協会（建コン協）東北支部長に就任する遠藤敏雄氏（復建技術

7月1日付で建設コンサルタント協会（建コン協）東北支部長に就任する遠藤敏雄氏（復建技術

東北の建設コンサルタント業が目指す方向について言及し、「東北は自然災害が多発する地域で、



遠藤 敏雄氏（えんどう としお）75年東北工業大学土木工学科卒、復建コンサルタント入社。05年取締役、08年代表取締役専務、09年6月23日社長。宮城県白石市出身。57歳。趣味は農業。好きな言葉は融合。

地元の建設コンサルタント業がもっとしっかりとする必要がある。経営に関するマニュアルづくりなど広域

展開する企業の力を借りながら経営力の底上げを図っていききたい」と抱負を述べた。

入札・契約制度の問題で総合評価方式について触れ、「実績や会社の規模を重視した参加要件が設定されると、中小が多い東北の建設コンサルタント業は競争に参加することができない」との認識を示した。

この問題の解決に向け「広域展開する企業と同じ土俵に上がり技術で競争できるよう、地域貢献度や地域密着度の評価を拡充することを発注機関

に強く求める」意向を表明した。

過度な低価格での受注が横行する問題に関しては、「技術を商品にするわれわれが技術を安売りする由々しき事態に陥っている」と指摘。

自助努力だけでは解決できない問題ととらえており、「制度的な改善を要望していく」考えだ。若い優秀な人材の入職を促す観点からは、建設コンサルタント業の魅力化を図る必要性を強調した。

具体的には「地域の風土をつくる公共事業の最上流の仕事であることを広く知ってもらう活動に力を入れる」方針だ。